デジタルワイヤレスインターカムシステム

型名 WD-2000シリーズ

－お買い上げありがとうございます－

ご使用の前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
そのあと、保証書および「システム設定データシート」と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

LST0244-001C

はじめに

ポータブルトランシーバー(子機)／WD-TR200の準備

ポータブルトランシーバー(子機)／WD-TR200の使いかた

多機能電話機の準備

多機能電話機の使いかた(インカムモード)

多機能電話機の使いかた(内線電話モード)

外線からのグループ通話の使いかた

その他

はじめに

特長

■ 1.9GHz帯デジタル通信の採用により、明瞭な音での通話、秘話性と、広いサービスエリアを実現します。

■ ポータブルトランシーバー（**WD-TR200**、**WD-TR100**）と多機能電話機（**WD-MT20**）あわせて最大61者間のグループ通話（グループ通話とは、同じグループの中で双方向の会話ができる状態です。）が可能です。

■ 複数のポータブルトランシーバーのグループ通話（インカム）、1対1の個別通話、構内(フロア)放送など、多彩な運用ができます。

■ 外部の電話機からグループ通話に入ることが可能です。

■ 面倒な操作なしに、スイッチを押すだけでいつでもただちに通話する事ができます。

■ 最大8グループに分けることができ、階別のグループ通話や、業務担当グループ毎のグループ通話ができます。グループ分けしても、全員への一斉連絡や1対1の個別通話など、他のグループの人とも通話ができます。

■ コントロールマイクロホン(**WD-UM15**)を使用することにより、高騒音下でも明瞭な音での通話ができます。

■ ポータブルトランシーバーの操作ボタンを最小限にして、簡単操作を実現しました。面倒な操作を覚える必要がありません。

■ 外部の音声をグループ通話に入力したり、グループ通話の音声を外部スピーカーなどに出力できます。

■ ポータブルトランシーバーから構内（フロア）放送をする事ができます。

■ ポータブルトランシーバー毎に構内（フロア）放送先を設定できます。

■ 電話交換機能の採用により、電話とインカムの融合が計れます。
●多機能電話機からのダイヤルによるポータブルトランシーバーの呼び出しが可能
●内線PHS電話機との通話が可能
●ポータブルトランシーバーで外線との通話が可能（電話回線接続ボード（オプション※1）が必要です。）

■ バッテリー単体での充電ができ、バッテリーを取り換えることにより、ポータブルトランシーバーを24時間使用することができます。1個のバッテリーによる連続使用時間は約10時間です。

■ 免許及び申請手続きは一切不要ですので、設置していただいたその日からご使用できます。

※1 オプションが必要な場合は、お買い上げ販売店にお問い合わせください。

◆本製品の設置および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となり、また事故のもととなりますので絶対おやめください。

◆本装置は、第一種情報装置（商工業地域において使用されるべき情報装置）で商工業地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しております。
従って、住宅地域またはその隣接した地域で使用すると、ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与えることがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

◆このシステムは日本国内用に設計されています。電圧、電話交換方式の異なる海外では、使用できません。
This telephone system is designed for use in Japan
only and cannot be used in any other country.

◆本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通話、録音などの機会を逸したために発生した損害等の純粋経済損害につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

◆本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のビクターサービス窓口へお申しつけください。

正しくお使いいただくためのご注意

■ 技術基準適合証明ラベルについて

セルステーション(**WD-T150**)およびポータブルトランシーバー(**WD-TR200, WD-TR100**)には、「技術基準適合証明品」をあらわす証明ラベルが貼ってあります。証明ラベルを剥したり、破いたりすると、サービスを受けられないことがありますので、大切に扱ってください。

■ ポータブルトランシーバーについて

落としたり、ぶつけたりしないでください。強い衝撃を与えると故障の原因となります。

■ コントロールマイクロホンについて

- コントロールマイクロホンを抜くときは、コードを引っ張らないでください。断線の原因となります。必ずツインプラグを持って抜いてください。
- ツインプラグの金属部を手でさわったりしないでください。接触不良の原因となります。汚れた場合は、乾いたきれいな布などでふき取ってください。

■ システムについて

- 本デジタルワイヤレスインターカムシステムは1.9GHz帯のデジタル無線通信を使用していますので、電波の届かない場所に移動するとノイズが出たり、通話が途絶えたりすることがあります。
- セルステーション(**WD-T150**)から電波の届く範囲は約100mです。セルステーション(**WD-T150**)とポータブルトランシーバー(**WD-TR200**、**WD-TR100**)の間に障害物がある場合、この距離は短くなります。
- 機器を長時間、直射日光のあたる場所、暖房器具の近くに放置しないでください。
- ハウリング現象(ピーンあるいはキャーンという音)を起こした場合はスピーカーの音量を絞るか、マイクの方向、位置などを変えてください。

■ ポータブルトランシーバーのバッテリー(充電式電池)について

- バッテリーを使わないときは、涼しい乾燥した場所に保管してください。
  高温になる場所(直接日光の当たる場所など)に放置しないでください。液モレや寿命を早める原因になります。
- バッテリーの端子部が汚れていると、動作時間が短くなります。主装置(**WD-M200**)添付の「月に1度は清掃を!」をご覧になり、清掃してください。
- バッテリーの充放電回数は約500回です。500回以下であっても動作時間が大幅に短くなったら、バッテリーの寿命と思われます。新しいものをお買い求めください。

リチウムイオンバッテリー(充電式電池)のリサイクルについて

Li-ion

美しい環境維持にあなたも一役。リサイクルに協力しましょう。
ご不要になった電池は、貴重な資源を守るために破棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
安全のため、充電式電池の金属部には、セロハンテープなどの絶縁テープを貼ってお持ちください。

■ バックアップバッテリー(WD-NB20)について

主装置(WD-M200)内に組み込むことのできるバックアップバッテリー(WD-NB20)は鉛蓄電池です。
取り扱いについては下記の内容にご注意ください。

- 停電時の動作時間は約10分です。停電がそれ以上続く場合は、主装置(WD-M200)の電源を切ってください。
- 本電池は停電したときにシステムの電源を切る時間を確保するためと、停電復旧までの短時間の動作維持のためのものであり、バックアップバッテリーのみで主装置の電源を入れることはできません。停電が復旧するまでお待ちください。
- 電池寿命は約2年です。定期的に交換することをおすすめします。交換はお買い上げ販売店もしくはビクターサービス窓口にご依頼ください。

■ 日常のお手入れについて

電源を切ってからバッテリーや電源プラグを抜いて、次のようにお手入れしてください。

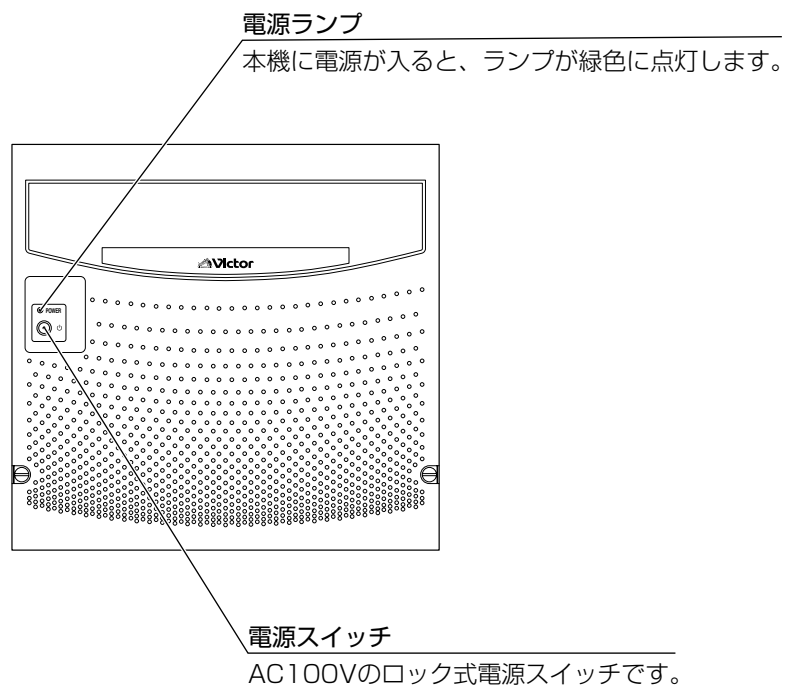
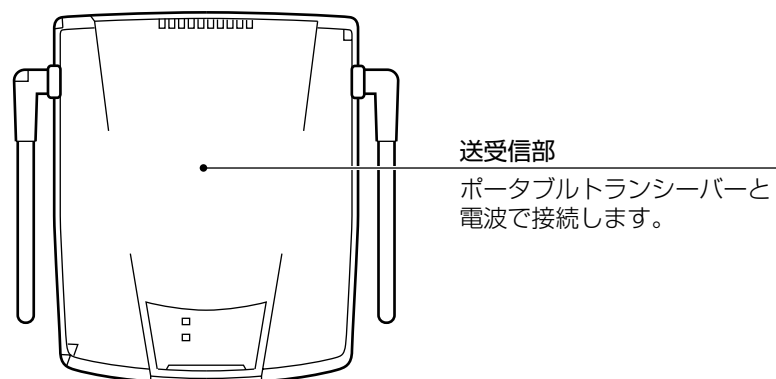
- 汚れは乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
- ひどい汚れは、水で薄めた中性洗剤に布を浸して固く絞ってから汚れを拭き、乾いた布で水分を拭き取ってください。

ベンジンやシンナーは使用しないでください。ボディの損傷や故障の原因になります。

■ 省エネルギーについて

節電のため、使用しない時はシステムの電源を切ってください。

各部のなまえとはたらき

■主装置／ WD-M200

■ セルステーション（親機）／ WD-T150（以後、親機と呼びます。）

■ポータブルトランシーバー（子機）／ WD-TR200（以後、子機と呼びます。）

WD-TR100 も同様にお使いいただけます。
この取扱説明書では、WD-TR200 を子機として説明します。

トークボタン

通話すときに押します。

グループ／電源ボタン

電源の入／切、または「グループ通話モード」への切り換えに使用します。

機能ボタン

工場出荷時、各ボタンに割り付けられている機能

工場出荷時のボタン名	一斉	個別	応答	グループ切換	オプション
機能	一斉	個別1	応答	機能なし	機能なし

※ 各ボタンに割り付けられた機能は、変更することができます。機能が変更されたボタンには、機能名が表示されているラベルが貼られている場合があるためイラストと表示が異なる場合があります。くわしくは、お買い上げ販売店または設置業者へお問い合わせください。
※ ボタンに割り付けられている機能が「機能なし」の場合は、押しても動作しません。

機能名	機　能
一　斉	全てのグループの人に連絡します。「一斉連絡モード」
個　別	あらかじめ設定された特定の人を呼び出します。「個別呼出モード」
応　答	呼び出されたときに使用します。
放　送	放送する時に使用します。「放送モード」
グループ切　換	他のグループに切り換えるときに使用します。
オプション	任意の機能を割り付けることができます。

内蔵マイク

内蔵マイクに向かって話します。
別売のコントロールマイクロホン（**WD-UM15**）を接続すると使用できなくなります。

動作ランプ

緑点滅:親機と接続中
緑点灯:エリア内
赤点灯:エリア外
赤点滅:電池残量少

音量ボタン

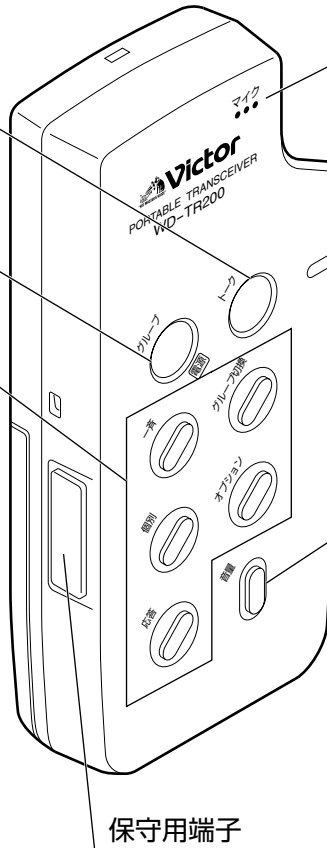
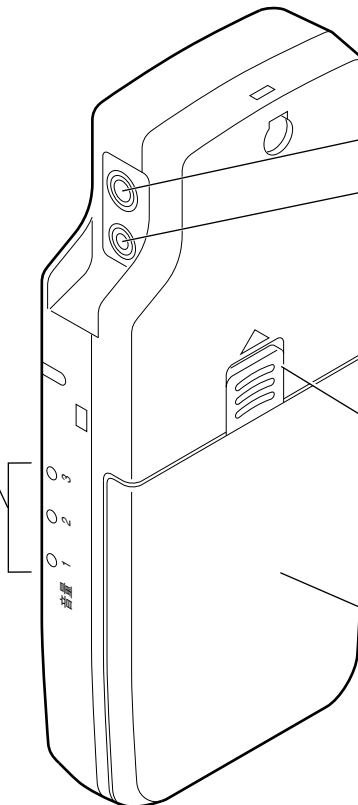
ボタンを押すたびに、音量が5段階に切り換わります。

保守用端子

音量表示ランプ

音量レベルを表示します。
➡イヤホンの音量を調節する（12ページ）

音量レベル	音量表示ランプ 1	2	3
特小	点灯	消灯	消灯
小	消灯	点灯	消灯
中	消灯	消灯	点灯
大	消灯	点灯	点灯
特大	点灯	点灯	点灯

-☼-：点灯
●：消灯

マイク端子

イヤホン端子

イヤホンを接続できます。

コントロールマイク端子

別売のコントロールマイクロホン（**WD-UM15**）を接続できます。

ロックレバー

バッテリーを取りはずすときに使用します。

バッテリー

（消耗品）

■ コントロールマイクロホン／WD-UM15

詳しくはコントロールマイクロホンに添付の取扱説明書をお読みください。

コントロールマイクロホン(WD-UM15)は消耗品扱いです。

マイククリップ
衣服の襟元などに装着するときご使用ください。

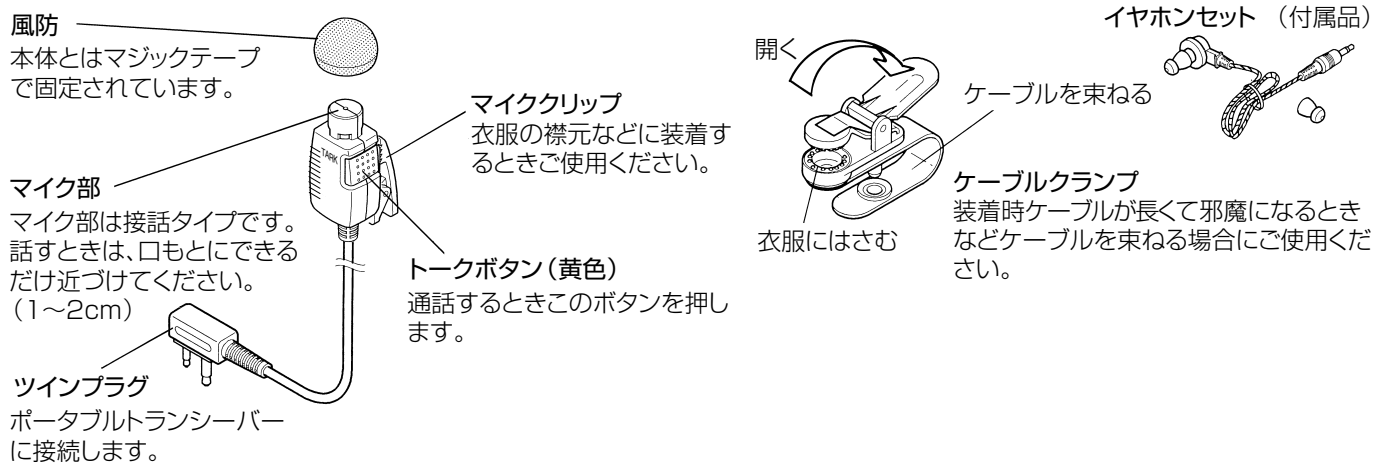
トークボタン（黄色）
通話するときこのボタンを押します。

開く

衣服にはさむ

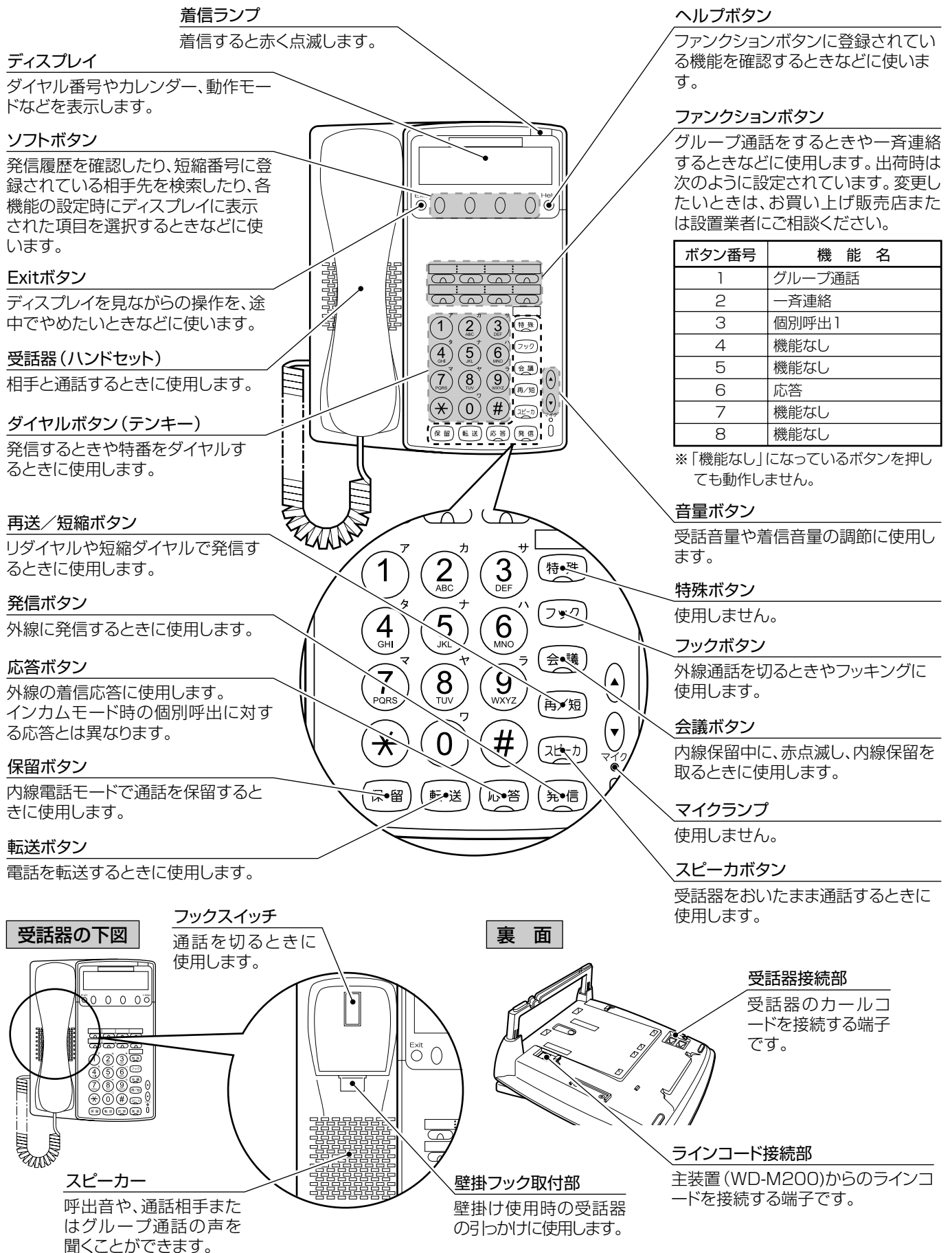
ケーブルを束ねる

ケーブルクランプ
装着時ケーブルが長くて邪魔になるときなどケーブルを束ねる場合にご使用ください。

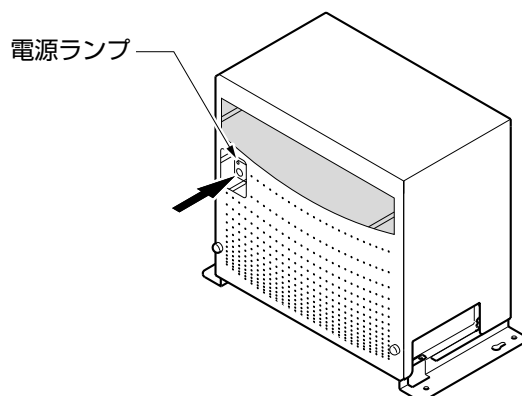
イヤホンセット （付属品）

ご注意

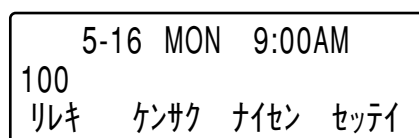
プラグが汚れていると通話にノイズが出たり、通話ができなくなることがあります。
定期的に乾いた布などで清掃してください。

■多機能電話機／ WD-MT20

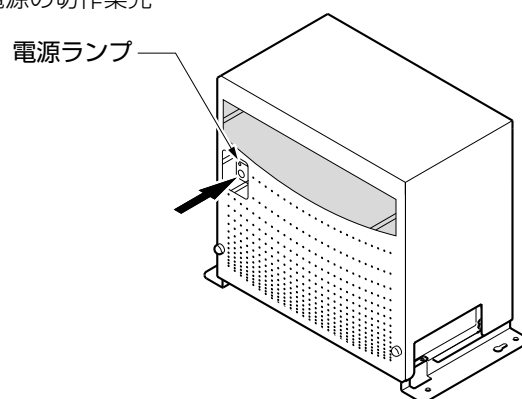
ボタン番号	機　能　名
1	グループ通話
2	一斉連絡
3	個別呼出1
4	機能なし
5	機能なし
6	応答
7	機能なし
8	機能なし

システム電源の入／切について

■電源を入れるとき

1. 主装置WD-M200の電源スイッチを押します。
電源ランプが緑色に点灯します。

2. 約2分後、多機能電話機のディスプレイに下図のような表示がでましたら、システム電源の投入作業完了です。

```
   5-16  MON   9:00AM
100
 ﾘﾚｷ     ｹﾝｻｸ  ﾅｲｾﾝ   ｾｯﾃｲ
```

■電源を切るとき

外線（公衆回線）に接続している場合は、外線からの電話がかからなくなりますので、電源を入れたままにしておくことを推奨します。

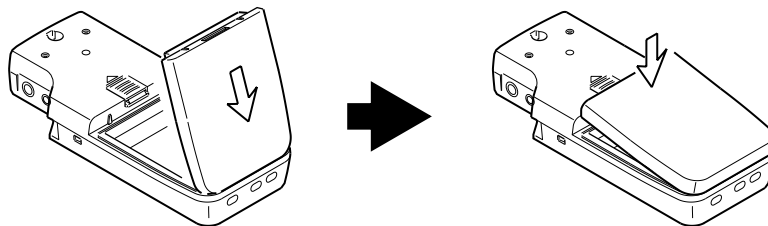
1. 主装置WD-M200の電源スイッチを押します。
電源ランプが点滅を開始し、電源ランプが消灯するとシステム電源の切作業完了です。

ご注意

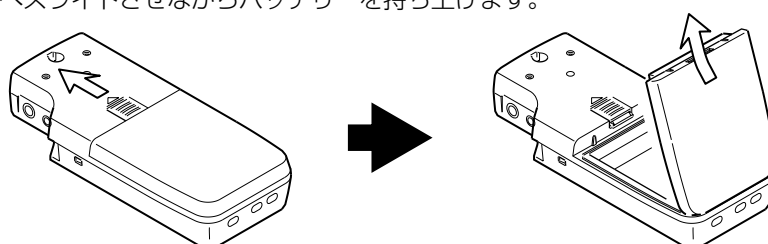
短縮ダイヤルや機能ボタンを登録したあとの場合、多機能電話機で[特殊]ボタン→[3]を押すと“データセーブチュウ”と表示されることがあります。この状況で電源を切ってしまうと、登録内容が正しく書き込まれないことがあります。しばらく待ってから、もう1度[特殊]ボタン→[3]を押して“メインソフトウェア バージョン ×××”が表示されることを確認してから、電源を切ってください。（多機能電話機で[特殊]ボタン→[3]を押さなくても“データセーブチュウ”と表示されている時も同様です。）

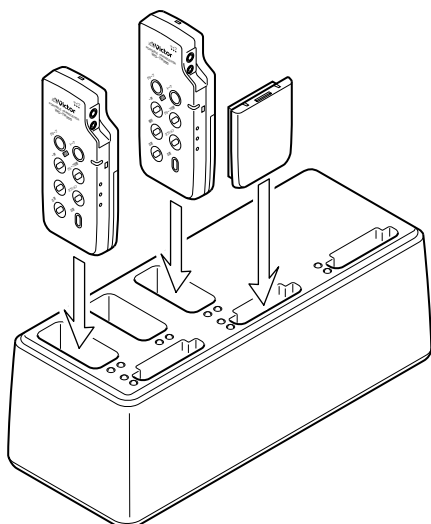
ポータブルトランシーバー（子機）／WD-TR200の準備

バッテリーを取り付ける、取りはずす

■バッテリーを取り付ける

本体とバッテリーの下部を合わせ、バッテリーの上部をカチッと音がするまで押します。

■バッテリーを取りはずす

ロックレバーを矢印の方向へスライドさせながらバッテリーを持ち上げます。

充電する

お使いになるときは、あらかじめ専用充電器(WD-C11、WD-C12)で充電（約3〜4時間）してください。
充電するときは、子機の電源をOFFにしてください。
充電中の赤ランプが点滅するときは、もう一度入れなおしてください。
充電のしかたは専用充電器の取扱説明書をお読みください。

ご注意

- 子機を充電するときは、専用充電器(WD-C11、WD-C12)以外使用しないでください。他の充電器を使用すると、火災や故障の原因となります。
- 子機を充電中に異臭を発したり、発熱、変色、変形など、その他今までと異なることに気がついたときは、ただちに電源コードをコンセントから抜き、安全であることを確認して充電中の子機、バッテリーを充電器から取り出し、販売店にご連絡ください。そのままご使用すると火災や感電の原因となります。
- ポータブルトランシーバーをご使用中に、イヤホンから「ピピ、ピピ‥‥‥‥」（約１０秒間隔）というアラーム音が鳴り、電源ランプが赤く点滅する場合は、バッテリーが消耗しています。速やかに、充電を行なってください。

バッテリー(部品No.SS35736-00D-S)をお買い求めになるときは、お買い上げ販売店または、ビクターサービス窓口にお問い合わせください。

コントロールマイクロホンを接続する

●別売コントロールマイクロホン(**WD-UM15**)を使用すると、高騒音下でも明瞭な音で通話することができます。

●コントロールマイクロホンのツインプラグをコントロールマイク端子に接続します。

●コントロールマイクロホンを接続すると、ポータブルトランシーバー(**WD-TR200**)の内蔵マイクは使えなくなります。

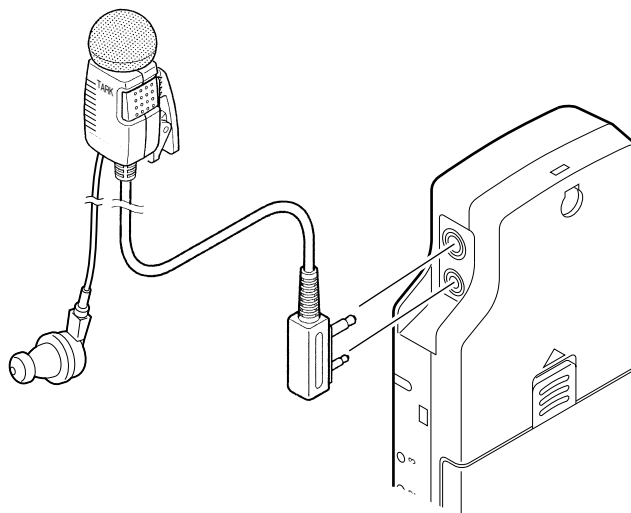
●コントロールマイクロホンの取扱説明書も必ずお読みください。

ご注意

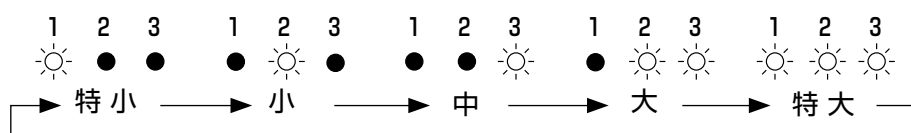
●プラグの抜き差しは、必ず電源を切った状態で行なってください。雑音や誤動作の原因となる事があります。

●接続するときは、ツインプラグを最後まで挿入してください。使用中に通話できなくなったり、プラグが抜けたりします。雑音発生の原因となることがあります。

●コントロールマイクを抜くときは、コードを引っ張らないでください。断線の原因となります。必ずツインプラグを持って抜いてください。

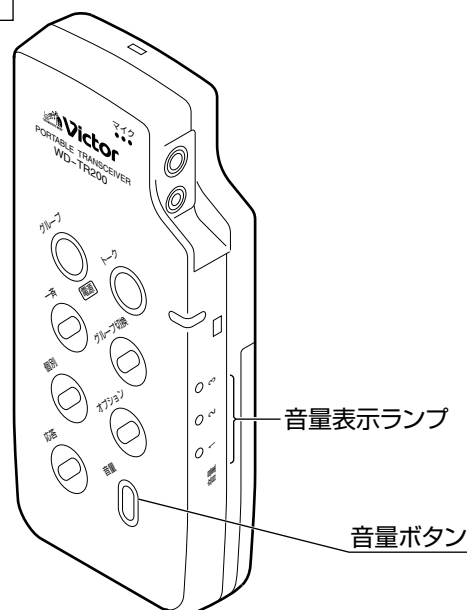
●ツインプラグの金属部を手でさわったりしないでください。接触不良の原因となります。汚れた場合は、乾いたきれいな布などでふき取ってください。

イヤホンの音量を調節する

●他のポータブルトランシーバーまたは多機能電話機からの音声を聞きながら、聞きやすい音量に調節します。

●本体の音量ボタンを押す度に音量が増加します。最大音量の次は最小音量になります。設定された音量は、音量ボタンを押したとき音量表示ランプの点灯状態で確認することができます。(音量ボタンを押していないときは、音量表示ランプは消灯しています。)

⚠注意

■大音量で長時間つづけて聞かない

・耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

・はじめから音量を上げすぎると、突然大きな音が出て耳をいためることがあります。音量は徐々に上げましょう。

電源の入／切について

イヤホンを耳に差したまま電源を入り切りしないでください。
大きな音が出て耳を痛める場合があります。

■電源を入れるとき

1. 電源 ボタンを、動作ランプが緑色の点滅になるまで押し続けます。

2. 動作ランプが緑の点灯に変わるまで待ちます（約8秒）。
緑色の連続点灯になれば、使用できます。
いつでもグループ通話ができます。

・ 赤色の点灯のままの場合は、接続できる親機が近くにないとき、または圏外で電源を入れたときです。エリア内または別の親機の近くに移動してください。

■電源を切るとき

1. 電源 ボタンを、動作ランプが消えるまで押し続けます。（約3秒）

ポータブルトランシーバー**WD-TR100**で、グループ切換した後に、電源を切る場合は、動作ランプが緑色であることを確認してから行なってください。

動作モードについて

子機（**WD-TR200**）には以下の5つの動作モードがあります。

動作モードの名前	動作の状態
グループ通話	インカムとしての動作モードです。 電源を入れた直後はこのモードになっています。 話の内容は同一グループ内全ての人に聞こえています。
一斉連絡	グループを越えて、全員に連絡するときのモードです。
個別呼出	あらかじめ設定した特定の相手を呼び出すモードです。 2人まで相手を設定できます。
個別通話	一斉連絡や個別呼出、外線からの呼び出しに応答することで相手と１対１で個別に通話できるモードです。 相手と電話のように会話ができ、その内容は他の人には聞こえません。 システム設定により、以下の2つの運用形態があります。 ・内線電話方式　：内線電話と同じ通話状態になります。この間は一斉連絡は聞こえません。 ・個別グループ方式：個別通話中でも一斉連絡が聞こえる通話状態です。個別通話ですべての個別グループを使用しているときは、個別呼び出しをしたり、一斉連絡に応答することはできません。
放送	子機から構内放送やフロア放送するときのモードです。 構内（フロア）放送設備と接続されている必要があります。

子機の使用中のお知らせ音について

子機は、使用しているモードや状況によりお知らせ音がイヤホンから聞こえます。
各お知らせ音についての名称、および内容は、下表をご参照ください。

お知らせ音	名　称	こんなときです
ピッ	モード切換音	子機の動作モードが変わったとき。 一斉連絡を受けるとき。
ピッピッ	無効音	間違ったボタンを押したとき。子機の動作モードが変わらなかったとき。すでにそのモードになっているとき。
ルルルル、･･･	呼出音	個別ボタンを押した後、相手を呼びだしているとき。
プップッ、･･･	子機キャッチホン	個別呼出を受けているとき。 応答ボタンを押して応答します。
プップップッ、･･･	外線キャッチホン	外線（公衆回線）がかかってきているとき。 応答ボタンを押して応答します。
プーッ、･･･	ビジー音	電波の弱いところに移動したり、親機に空きチャンネルが無いときにトークボタンを押したとき。 また個別ボタンを押したとき、相手が出られない（相手が通話エリア外、電源が入っていない、個別通話をしている）とき。グループボタンを押して、グループ通話に戻ってください。
ピッピッ、･･･ （10秒間隔）	電池残量低下警告音	電池が消耗してきたとき。 速やかに充電するか充電済みのバッテリーと交換してください。
ピッピッピッ･･･	その他の警告音	・電池残量が少なくなったとき(動作ランプは赤点滅) 充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。 ・システムへのグループ通話登録がされていないとき（動作ランプは緑点滅) システムへのグループ通話登録をする必要がありますので、お買い上げ販売店にご相談ください。

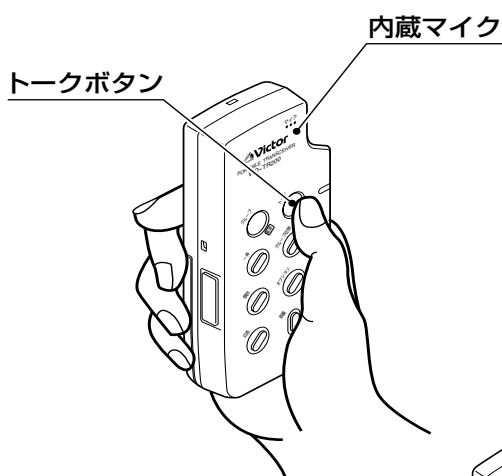
ポータブルトランシーバー（子機）／WD-TR200の使いかた

通話をする

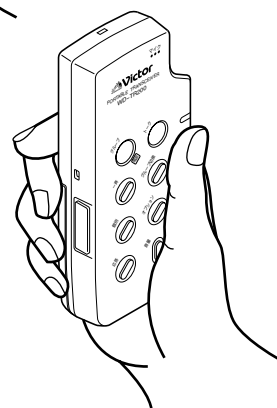
すべての通話モードに共通する、通話（または会話）をするときの操作です。
子機に内蔵されているマイク、または別売のコントロールマイクロホン（**WD-UM15**）で通話をすることができます。

■内蔵マイクで通話をする

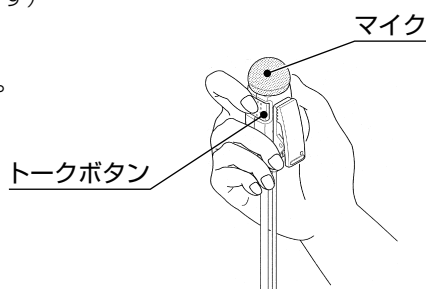
（周囲の騒音が少ないところに適しています）

1. トーク ボタン（黄色）を押します。

2. トーク ボタン（黄色）を押したまま、内蔵マイクに向かって話します。

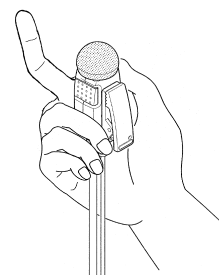
・ 高感度タイプのマイクを使用しておりすので、マイクと口元を５ｃｍ程度はなしてお使いください。

3. 話し終えたら、トーク ボタン（黄色）をはなします。

■別売のコントロールマイクロホンで通話をする

（周囲の騒音が多いところに適しています）

1. トーク ボタン（黄色）を押します。

2. トーク ボタン（黄色）を押したまま、マイクに向かって話します。

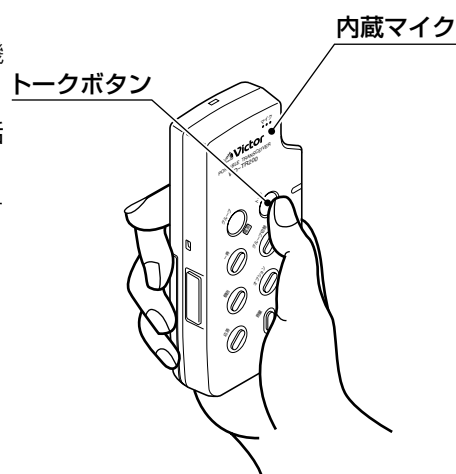
・ 接話タイプのマイクを使用しておりますので、マイクと口元をできるだけ近づけてお使いください。
（1～2cm）

3. 話し終えたら、トーク ボタン（黄色）をはなします。

グループ内で通話をする（グループ通話モード）

同じグループの子機どうしで、電話のように会話ができます。
このとき、同じグループの子機にも会話の内容は聞こえますが、他のグループの子機には会話の内容は聞こえません。

- 子機の電源を入れると、自動的にあらかじめ設定されたグループでの**グループ通話モード**になり、通常はこのモードになっています。
- グループ分けの設定は、設置時に設定されています。グループ分けの変更については、お買い上げ販売店または、設置業者におたずねください。

1. [トーク] ボタンを押しながら、マイクに向って話します。

2. 話し終えたら、[トーク] ボタン（黄色）をはなします。

すべてのグループに対して通話をする（一斉連絡モード）

グループ分けに関係なく、全員に一斉に連絡をしたいときに使います。呼びかけに他の人が応答すると、2 人で個別通話ができます。

1. [一 斉] ボタンを押します。イヤホンから“ピッ”と音が出ます。

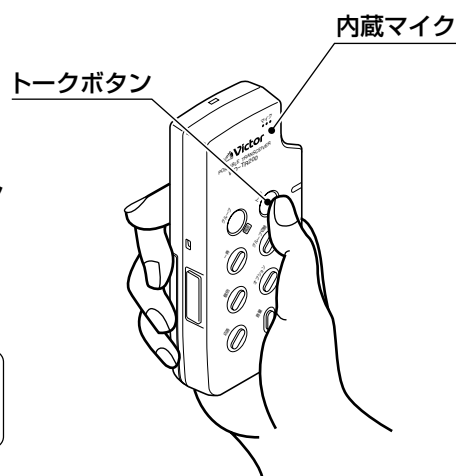
- “ピッピッ”という音（無効音）が聞こえたときは、他の人がすでに一斉連絡や個別呼出をしているときです。しばらくしてからやり直してください。

2. [トーク] ボタンを押しながら話します。

[グループ] ボタンを押すと、自分のグループでの「グループ通話モード」に戻ります。

また、[グループ切換] ボタンが割り付けられている場合に [グループ切換] ボタンを押すと、切り換え先での「グループ通話モード」になります。

- このときの通話内容は、グループ分けに関係なく全員に聞こえています。
- 個別通話をしている人には聞こえません。

> ここで相手が応答することにより、個別通話に移ることもできます。
> ➡個別通話モード（18ページ）

3. 話が終われば、 [グループ] ボタンを押すと、自分のグループでの「グループ通話モード」に戻ります。

また、 [グループ切換] ボタンが割り付けられている場合に [グループ切換] ボタンを押すと、切り換え先での「グループ通話モード」になります。

- 一方がグループ通話モードに戻ると、相手も自動的にグループ通話モードに戻ります。

特定の人を呼び出す（個別呼出モード）

あらかじめ設定している特定の人（特定の人は最大2人）と個別通話をしたいときに使います。
このとき、会話の内容は他の人には聞こえません。

- 呼び出し先の設定は、設置時にシステム設定されています。システム設定についてはお買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。
- 個別通話モードを個別グループ方式にシステム設定している場合、個別通話ですべての個別グループを使用しているときにこの操作を行うと、”ピッピッ”という音（無効音）が聞こえ、特定の人を呼び出すことができません。システム設定についてはお買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

1. 個 別 ボタンを押します。

“ピッピッ”という音（無効音）が聞こえたときは，次のような状態になっているときです。しばらくしてからやり直してください。

- 他の人がすでに一斉連絡をしているとき
- 呼び出そうとした相手がすでに他の人から呼び出しをされている、他の人を呼び出している、個別通話をしている、放送をしているとき

2. 相手を呼び出している間、イヤホンから“ルルル、･･･”という音（呼出音）が聞こえます。

- 呼出音のあと“プーッ，プーッ…”という音が聞こえたときは、相手がエリア外か電源が入っていないときです。
  一度、グループ ボタンを押してグループ通話モードに戻り、***1.***からやり直してください。
- このとき、呼ばれた相手は、イヤホンから“プップッ、･･･”という音（子機キャッチホン）が聞こえます。
- 呼び出しをやめたいときは、グループ ボタンを押すと、自分のグループでの「グループ通話モード」に戻ります。
  また、グループ切換 ボタンが割り付けられている場合に グループ切換 ボタンを押すと、切り換え先での「グループ通話モード」になります。

ここで相手が応答することにより、個別通話に移ることもできます。
➡個別通話モード（18ページ）

個別呼出や一斉連絡に応答する（個別通話モード）

個別呼出で呼ばれたとき、一斉連絡に対して応答し個別通話をするときや外線が転送されてきたときに使います。
このとき、会話の内容は他の人には聞こえません。

個別通話モードを個別グループ方式にシステム設定している場合、個別通話ですべての個別グループを使用しているときにこの操作を行うと、”ピッピッ”という音（無効音）が聞こえ、応答できません。システム設定についてはお買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

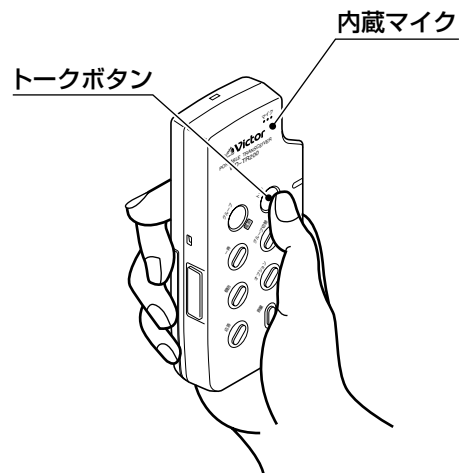
1. イヤホンからお知らせ音が聞こえます。

・“ピッ”という音がしたとき
　一斉連絡が入っています。

●“プップッ, プップッ, ‥”（子機キャッチホン）という音がしたとき
　他の子機から個別呼出を受けています。

●“プッププッ, プッププッ, ‥”（外線キャッチホン）という音がしたとき
　外線から電話がかかってきています。

2. [応 答] ボタンを押すと、イヤホンから“ピッ”と音が出ます。

3. [トーク] ボタンを押しながら電話のように通話します。
このとき、通話の内容は他の人には聞こえていません。

4. 話が終わりましたら、[グループ] ボタンを押すと、自分のグループでの「グループ通話モード」に戻ります。

また、[グループ切換] ボタンが割り付けられている場合に [グループ切換] ボタンを押すと、切り換え先での「グループ通話モード」になります。

・一方がグループ通話モードに戻ると、相手も自動的にグループ通話モードに戻ります。

外線に応答したときは、自動的にグループ通話には戻りません。

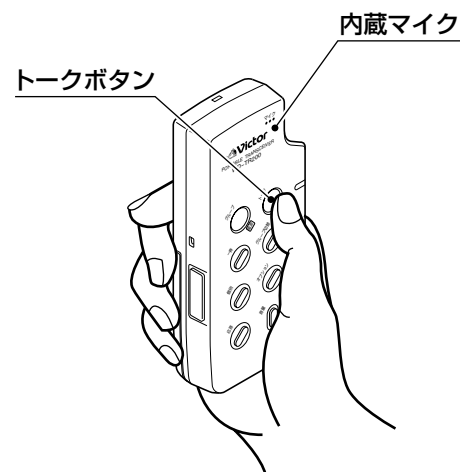
放送する（放送モード）

構内やフロア内などに，子機から直接放送したいとき使用します。

●この操作をするには、主装置（**WD-M200**）が構内（フロア）放送設備と接続されている必要があります。接続と設定は、お買い上げ販売店または、設置業者にご相談ください。
●放送を行う場合は、放送機能を設定する必要があります。
設定変更は、お買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

1. 放 送 ボタンを押します。イヤホンから“ピッ”と音が出ます。

・“ピッピッ”という音（無効音）が聞こえたときは、他の人がすでに放送をしているときです。しばらくしてからやり直してください。

2. トーク ボタンを押しながらマイクに向かって話します。

3. 放送が終わりましたら、グループ ボタンを押すと、自分のグループでの「グループ通話モード」に戻ります。

また、グループ切換 ボタンが割り付けられている場合に グループ切換 ボタンを押すと、切り換え先での「グループ通話モード」になります。

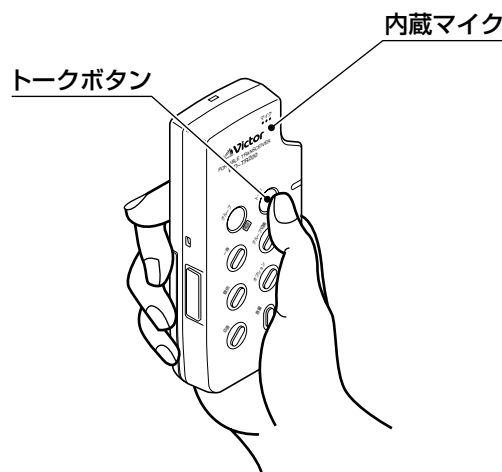
グループを切り換えて通話をする(グループ切換モード)

切り換えた先のグループの子機どうしで会話ができます。このとき、同じグループの子機にも会話の内容は聞こえますが、他のグループの子機には会話の内容は聞こえません。

グループ切り換えをするためには、システムの設定変更が必要です。
設定変更は、お買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

1. グループ切換 ボタンを押します。イヤホンから“ピッ”と音が出ます。

・“ピッピッ”という音(無効音)が聞こえたときは,切り換えようとした先のグループが定員に達していて参加できなかったときです。

2. トーク ボタンを押しながらマイクに向かって話します。

3. グループ ボタンを押すと自分のグループに戻ります。

・ここで、グループ切り換え機能が割り付けられているボタンを押すと、切り換え先での「グループ通話モード」になります。

多機能電話機の準備

用語について

●この取扱説明書で使用している用語を説明します。

項	用　語	意　味
1	特番	各種のサービスを利用する場合に、ダイヤルする番号で、サービスにより決められた番号です。 特番の詳細については、お買い上げ販売店または、設置業者にご相談ください。
2	局線（外線）	NTTなどの電話通信事業者とお客様がご契約している通常の電話回線のことです。この取扱説明書では、外線と呼びます。
3	内線	WD-2000システム内に接続されている多機能電話機や各端末機器での通話を総称して内線と呼びます。
4	外線発信音	外線を捕捉する操作を行った後、受話器より”ツー”という音が聞こえますが、この音が外線発信音です。この音が聞こえたら、外線発信が可能です。（外線ダイヤルトーンとも言います）
5	内線発信音	受話器をとると、受話器より”ツー、ツー”という音が聞こえますが、この音が内線発信音です。この音が聞こえたら、内線発信や各種サービス機能が利用できます。（内線ダイヤルトーンとも言います）
6	オンフック、オフフック	オンフックとは受話器を置いた状態のことを言います。逆にオフフックとは受話器を取った（上げた）状態のことを言います。 （例）オンフックダイヤル 受話器を置いたまま発信操作すること。
7	話中（ビジー）	相手を呼びだした時、相手が話中である場合や、外線発信をする時、外線が使用中の状態を言います。 また、この時に聞こえる音を話中音（ビジートーン）と言います。

音や表示器を調節する（ボリュームコントロール）

次の調節を行うには、音量ボタンを使います。

・ 受話器から聞こえる声（受話音量）
・ スピーカーから聞こえる声（スピーカー音量）
・ 多機能電話機のベルの音（着信音量）
・ 通話中に着信したときのベルの音（話中着信音量）
・ ディスプレイのコントラスト（濃淡）

■受話音量を変える

受話器で通話中に、音量ボタンを押してください。

[▲]大きくする　　[▼]小さくする

■スピーカー音量を変える

スピーカーから音が出ているときに、音量ボタンを押してください。

[▲]大きくする　　[▼]小さくする

■着信音量を変える

着信音が鳴っている間に、音量ボタンを押してください。

[▲]大きくする　　[▼]小さくする

また、着信音が鳴っていない場合は、次の手順で調節します。

1. 多機能電話機を使っていない状態にします。

2. スピーカ ボタンを押します。

3. ⑨③⑦ を押します。
937は、着信音量設定の特番（初期値）です。

4. スピーカーから着信音が鳴ります。

5. 音量ボタン[▲]または[▼]を押して調節します。

6. スピーカ ボタンを押します。

■ディスプレイのコントラストを変える

ディスプレイの明るさ（コントラスト）を調節したいときは、多機能電話機を使用していない状態で、音量ボタンを押してください。

[▲]濃くする　　[▼]淡くする

着信音の音色を選ぶ（着信音色切換）

内線や外線から着信したときに鳴る着信音の音色を、8種類の中から選ぶことができます。
着信音を設定する前に、どのような音かを確認してから、設定してください。

■設定のしかた

1. スピーカ ボタンを押します。

2. ⑨②⓪ を押します。
920は、着信音色切換の特番（初期値）です。

```
ﾁｬｸｼﾝｵﾝ ｾｯﾃｲ
1:ﾅｲｾﾝ 2:ｶﾞｲｾﾝ
```

3. 内線または外線の番号を押します。
1：内線
2：外線
例：1（内線）を押した場合

```
ﾁｬｸｼﾝｵﾝ ｾｯﾃｲ ﾅｲｾﾝ
ﾁｬｸｼﾝｵﾝ1-8:?
```

4. 着信音色の番号（1〜8）を押します。
例：1を押した場合

```
ﾁｬｸｼﾝｵﾝ ｾｯﾃｲ ﾅｲｾﾝ
ﾁｬｸｼﾝｵﾝ 1 ｾｯﾄ
```

5. 押した番号の着信音が鳴ります。
別の番号を押すと、その番号の着信音が鳴り、確認することができます。

6. 着信音が決まったら、スピーカ ボタンを押します。

ダイヤルボタンを押したときの音を設定する（キータッチトーン）

多機能電話機のボタンを押すたびに“ピッ”という音を出すことができます。ボタンを押したことを音で確認できます。

■設定のしかた

1. スピーカ ボタンを押します。

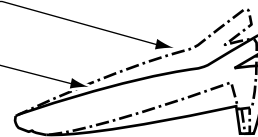
2. ⑨①⑨ を押します。
919は、キータッチトーンの特番（初期値）です。

3. スピーカ ボタンを押します。

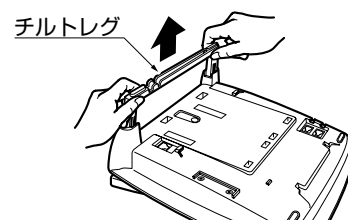
■解除のしかた

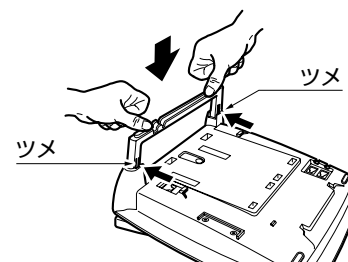
設定のしかたと同じ操作をもう1 度行うと、解除することができます。

多機能電話機の角度を調節する

多機能電話機裏面にあるチルトレグ（あし）を引き出すと、多機能電話機の角度を変えることができます。使いやすい角度に調節してください。

多機能電話機の側面図

■チルトレグを上げる

チルトレグの左右を持ち、左右とも“カチッ”と音がするまで平行に引き出します。

■チルトレグを下げる

チルトレグの左右のツメを押し込みながら、ゴム足部分を押し込みます。

動作モードについて

多機能電話機の動作モードには、内線電話モードとインカムモードがあります。

●内線電話モード
内線電話端末として使用するモードです。

●インカムモード
インカム端末として使用するモードです。
インカムモードにはさらに以下の5つの動作モードがあります。

動作モードの名前	動作の状態
グループ通話	インカムとしての動作モードです。 電源を入れた直後はこのモードになっています。 話の内容は同一グループ内全ての人に聞こえています。
一斉連絡	グループを越えて、全員に連絡するときのモードです。
個別呼出	あらかじめ設定した特定の相手を呼び出すモードです。 2人まで相手を設定できます。
個別通話	一斉連絡や個別呼出、外線からの呼び出しに応答することで相手と１対１で個別に通話できるモードです。 相手と電話のように会話ができ、その内容は他の人には聞こえません。 システム設定により、以下の2つの運用形態があります。 ・内線電話方式　：内線電話と同じ通話状態になります。この間は一斉連絡は聞こえません。 ・個別グループ方式：個別通話中でも一斉連絡が聞こえる通話状態です。個別通話ですべての個別グループを使用しているときは、個別呼び出しをしたり、一斉連絡に応答することはできません。
放送	子機から構内放送やフロア放送するときのモードです。 構内（フロア）放送設備と接続されている必要があります。

インカムモードに入るためには、システム設定にインカム設定をする必要があります。
設定は、お買い上げ販売店または、設置業者へお問い合わせください。

多機能電話機の使いかた（インカムモード）

グループ内で通話をする（グループ通話モード）

・ 自分の属しているインカムグループの全員と通話したいとき使用します。

・ 通話内容は他のインカムグループには聞こえてません。

1. 受話器を持ち上げ，ファンクションボタンの グループ ボタンを押します。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ　GRP_1

2. インカムグループの全員とグループ通話をします。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ　GRP_1

3. スピーカ ボタンを押して受話器を戻します。
スピーカ ボタンのランプが点灯します。この動作を行わないで受話器を戻すと受話器と多機能電話機に当たる音が子機に伝わってしまいます。

4. 再度 スピーカ ボタンを押してグループ通話を終わります。
内線ランプが消灯します。

5-16　MON　9:00AM
100
ﾘﾚｷ　ｹﾝｻｸ　ﾅｲｾﾝ　ｾｯﾃｲ

通話後受話器をそのまま戻すと，受話器と多機能電話機が当たる音が他の子機のイヤホンから発生し，耳を痛める場合があります。通話終了時は必ず次の方法のいずれかで行なってください。

① スピーカ ボタンを押して受話器を戻す。（手順**3.**の状態になります。）

②多機能電話機のフックスイッチを指で押してから，受話器を戻す。（内線電話モードに戻ります。）

③受話器を静かに戻す。（内線電話モードに戻ります。）

すべてのグループに対して通話をする（一斉連絡モード）

・グループに関係なく、全員に話をしたいとき使用します。
・呼びかけに他の人が応答すると、2人で個別通話ができます。

1. 受話器を持ち上げ，ファンクションボタンの［グループ］ボタンを押します。

```
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ          GRP_1
```

2. ファンクションボタンの［一 斉］ボタンを押します。
・“ピッピッ”という音（無効音）が聞こえた場合は，他の人がすでに一斉連絡をしているときです。終了するのを待ってからやり直してください。

```
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ          GRP_1
ｲｯｾｲ
```

3. 受話器で話します。内容は全員に聞こえています。
個別通話や放送をしている人には聞こえません。
また、相手の声も聞こえません。

> ここで相手が応答することにより、個別通話に移ることもできます。
> ➡個別通話モード（27ページ）

```
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ          GRP_1
ｲｯｾｲ
```

4. ［スピーカ］ボタンを押して受話器を戻します。
［スピーカ］ボタンのランプが点灯します。

5. ［グループ］ボタンを押してグループ通話モードにします。
・内線通話モードにしたいときは、［スピーカ］ボタンを押します。

```
   5-16  MON   9:00AM
100
ﾘﾙｷ    ｹﾝｻｸ  ﾅｲｾﾝ  ｾｯﾃｲ
```

一斉連絡終了時受話器をそのまま戻すと、受話器と多機能電話機が当たる音が他の子機のイヤホンから発生し、耳を痛める場合があります。通話終了時は必ず次の方法のいずれかで行なってください。
①［スピーカ］ボタンを押して受話器を戻す。（手順**4.**の状態になります。）
②多機能電話機のフックスイッチを指で押してから、受話器を戻す。（内線電話モードに戻ります。）
③受話器を静かに戻す。（内線電話モードに戻ります。）

特定の人を呼び出す（個別呼出モード）

あらかじめ設定している特定の人(特定の人は最大2人)と個別通話をしたいときに使います。
このとき、会話の内容は他の人には聞こえません。

・ 呼び出し先の設定は、設置時にシステム設定されています。システム設定についてはお買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。
・ 個別通話モードを個別グループ方式にシステム設定している場合、個別通話ですべての個別グループを使用しているときにこの操作を行うと、”ピッピッ”という音（無効音）が聞こえ、特定の人を呼び出すことができません。システム設定についてはお買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

1. 受話器を持ち上げ、ファンクションボタンの グループ ボタンを押します。
内線ランプが点滅します。

2. 話したい相手の 個別呼出 ボタンを押します。
・ “ルルル、…”という音（呼出音）が聞こえ、相手を呼び出します。
・ 呼び出しをやめたいときは グループ ボタンを押すと、あらかじめ設定されたグループでの「グループ通話モード」に戻ります。
・ “ピッピッ”という音（無効音）が聞こえたときは、次のような状態になっているときです。しばらくしてからやり直してください。
　・ 他の人がすでに一斉連絡をしているとき
　・ 呼び出そうとした相手がすでに他の人から呼び出しをされている、他の人を呼び出している、個別通話をしている、放送をしているとき

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ GRP_1
ﾖﾋﾞﾀﾞｼ 201

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ GRP_1
ｺﾍﾞﾂ 201

3. 呼ばれた相手が 応 答 ボタンを押すと“ピッ”という音（モード切換音）が聞こえます。
このまま通話してください。

4. スピーカ ボタンを押して受話器を戻します。
スピーカ ボタンのランプが点灯します。

5. グループ ボタンを押してグループ通話モードにします。
・ 内線電話モードにしたいときは スピーカ ボタンを押します。

呼び出し中に受話器をそのまま戻すと、受話器と多機能電話機が当たる音が他の子機のイヤホンから発生し、耳を痛める場合があります。通話終了時は必ず次の方法のいずれかで行ってください。
① スピーカ ボタンを押して受話器を戻す。（手順**4.**の状態になります。）
②多機能電話機のフックスイッチを指で押してから、受話器を戻す。（内線電話モードに戻ります。）
③受話器を静かに戻す。（内線電話モードに戻ります。）

個別呼出や一斉連絡に応答する（個別通話モード）

下記の状態のときに、ファンクションボタンの 応 答 ボタンを押すと応答できます。
このとき、会話の内容は他の人には聞こえません。

・ グループ通話中、個別呼出で呼ばれたとき
・ 一斉連絡に対して1対1で個別に通話をしたいとき
・ 外線が転送されてきたとき

個別通話モードを個別グループ方式にシステム設定している場合、個別通話ですべての個別グループを使用しているときにこの操作を行うと、“ピッピッ”という音（無効音）が聞こえ、応答できません。システム設定についてはお買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

放送する（放送モード）

構内やフロア内などに、多機能電話機から直接放送したいときに使用します。

- 放送するためには放送機能を設定する必要があります。設定変更は、お買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。
- この操作をするには、主装置（**WD-M200**）が、構内（フロア）放送設備と接続されている必要があります。接続と設定は、お買い上げ販売店または、設置業者にご相談ください。

1. 受話器を持ち上げ、ファンクションボタンの［グループ］ボタンを押します。
内線ランプが点滅します。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ　GRP_1

2. ファンクションボタンの［放 送］ボタンを押します。
・“ピッピッ”という音（無効音）が聞こえた場合は、他の人がすでに放送をしているときです。終了するのを待ってからやり直してください。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ　GRP_1
ﾎｳｿｳ　ｲｯｾｲ

3. 受話器で放送します。

4. ［スピーカ］ボタンを押して受話器を戻します。
［スピーカ］ボタンのランプが点灯します。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ　GRP_1
ﾎｳｿｳ　ｲｯｾｲ

スピーカ

5. ［グループ通話］ボタンを押してグループ通話モードにします。
・内線電話モードにしたいときは［スピーカ］ボタンを押します。

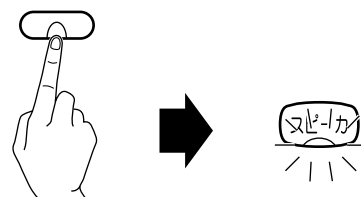
放送中に受話器をそのまま戻すと，受話器と多機能電話機が当たる音が放送しているスピーカーなどに出力されてしまう場合があります。通話終了時は必ず次の方法のいずれかで行なってください。
①［スピーカ］ボタンを押して受話器を戻す。（手順**4.**の状態になります。）
②多機能電話機のフックスイッチを指で押してから，受話器を戻す。（内線電話モードに戻ります。）
③受話器を静かに戻す。（内線電話モードに戻ります。）

グループを切り換えて通話をする(グループ切換モード)

切り換えた先のグループと通話ができます。通話内容は他のインカムグループには聞こえません。

グループ切り換えをするためには、システムの設定変更が必要です。
設定変更は、お買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

1. ファンクションボタンの グループ通話 ボタンを押します。
内線ランプが点滅し, スピーカ ボタンのランプが点灯します。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ GRP_1

2. 多機能電話機の属しているグループの通話が多機能電話機のスピーカーから聞こえてきます。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ GRP_1

3. 切り換えたいグループの グループ切換 ボタンを押します。
・ 選択したグループの通話がスピーカーから聞こえてきます。
・ “ピッピッ”という音(無効音)が聞こえた場合は、切り換えようとした先のグループが定員に達していて参加できなかったときです。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ GRP_2

4. グループ通話 ボタンを押すと、元のグループに戻ります。

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ GRP_1

メモ

グループ切り換え中に受話器をとると, そのグループとグループ通話ができます。

通話後受話器をそのまま戻すと, 受話器と多機能電話機が当たる音が他の子機のイヤホンから発生し, 耳を痛める場合があります。通話終了時は必ず次の方法のいずれかで行なってください。
① スピーカ ボタンを押して受話器を戻す。(直前に通話をしていたグループでのグループ通話モードになります。)
②多機能電話機のフックスイッチを指で押してから, 受話器を戻す。(内線電話モードに戻ります。)
③受話器を静かに戻す。(内線電話モードに戻ります。)

多機能電話機の使いかた（内線電話モード）

受話器を取ったとき、あるいは **スピーカ** ボタンを押したときにディスプレイに表示されるグループ、オウトウはインカムモード時のものとは異なります。

内線へ電話をかける（内線呼出）

子機や他の多機能電話機を呼び出すことができます。

1. 受話器を取ります。

・内線発信音が聞こえます。

2. 相手の内線番号をダイヤルします。

```
    5-16  MON  9:00AM
ﾖﾋﾞﾀﾞｼ                 201
 ｷﾘｶｴ  ｽﾃｯﾌﾟﾒｯｾｰｼﾞ   ↓
```

3. 相手が出たら通話できます。

```
    5-16  MON  9:00AM
ﾂｳﾜ                    201
 ｶｲｷﾞ
```

電話をうける（受話器を取るだけで応答）

外線や内線から電話がかかってきたとき、受話器を取るだけで応答することができます。

外線で通話するには、**電話回線接続ボード**（オプション）が主装置（**WD-M200**）に組み込まれている必要があります。組み込みと設定はお買い上げ販売店または、設置業者にご相談ください。

1. 外線あるいは内線からの着信音が鳴ります。

2. 受話器を取ります。

➡相手とお話ができます。

外へ電話をかける

■受話器を取ってかけるとき

1. 受話器を取ります。

・ 内線発信音が聞こえます。

2. 外線発信特番(例えば"0")をダイヤルします。

・ "ツー"と、外線発信音が聞こえます。

```
    LINE  001

ﾘﾋﾟｰﾄ            ｶｲｷﾞ
```

3. 相手先電話番号をダイヤルします。

```
    LINE  001
                  01234567
ﾘﾋﾟｰﾄ            ｶｲｷﾞ
```

4. 相手が出たらお話ができます。

・ 通話が始まると通話時間が表示されます。

```
    LINE  001    00:24
                  01234567
ﾘﾋﾟｰﾄ            ｶｲｷﾞ
```

外線で通話するには、**電話回線接続ボード**(オプション)が主装置(**WD-M200**)に組み込まれている必要があります。組み込みと設定はお買い上げ販売店または、設置業者にご相談ください。

■受話器を取らずにかけるとき(オンフックダイヤル)

受話器を取らなくても、多機能電話機のスピーカーから相手の声が聞こえますので、受話器を取らずにダイヤル発信ができます。

1. [スピーカ] ボタンを押します。

・ [スピーカ] ボタンのランプが赤の点灯。

・ 内線発信音が聞こえます。

2. 外線発信特番(例えば"0")をダイヤルします。

・"ツー"と、外線発信音が聞こえます。

```
    LINE  001

ﾘﾋﾟｰﾄ            ｶｲｷﾞ
```

3. 相手先電話番号をダイヤルします。

➡スピーカーから相手の応答する声が聞こえます。

```
    LINE  001
                  01234567
ﾘﾋﾟｰﾄ            ｶｲｷﾞ
```

4. 受話器を取ります。

・ [スピーカ] ボタンのランプが消灯。

➡相手と通話ができます。

```
    LINE  001    00:24
                  01234567
ﾘﾋﾟｰﾄ            ｶｲｷﾞ
```

短縮番号を登録する

相手先の電話番号をあらかじめ登録しておくと、簡単な操作で外線発信することができます。

- 内線ではご利用になれません。
- 外線で通話するには、**電話回線接続ボード**(オプション)が主装置(**WD-M200**)に組み込まれている必要があります。組み込みと設定はお買い上げ販売店または、設置業者にご相談ください。

■短縮番号の登録

1. スピーカ ボタンを押します。

・内線発信音が聞こえます。

2. 短縮登録特番(初期値;＊04)をダイヤルします。

(例)"＊04"をダイヤルします。

```
ﾀﾝｼｭｸ ﾄｳﾛｸ
```

3. 短縮番号をダイヤルします。

(例)"010"とダイヤルします。

```
ﾀﾝｼｭｸ0010
```

4. 登録したい相手先電話番号をダイヤルします。

(例)"123456789"とダイヤルします。

```
ﾀﾝｼｭｸ0010
         123456789
```

5. 保 留 ボタンを押します。

```
ﾀﾝｼｭｸ0010
         =
```

6. 相手の名前を入力します。

名前の入力のしかたは「■文字入力のしかた」(⇒次ページ)を参照してください。

```
ﾀﾝｼｭｸ0010
         =ｽｽﾞｷB
```

7. 保 留 ボタンを押します。

```
ﾀﾝｼｭｸ ﾄｳﾛｸ
```

8. スピーカ ボタンを押します。

- 繰り返し登録するときは、***7.*** の操作後に、***3.*** の操作に戻ります。
- 同じ短縮番号へ新しい相手先電話番号を登録することにより、以前に登録した相手先電話番号は、新しい番号に置き換わります。
- 登録できる番号は最大24桁まで、0～9、＊、#、ポーズが登録可能です。(ポーズは 転 送 ボタンを押します。)また相手の名前を半角英数字か、カタカナで最大12文字まで、登録可能です。

■文字の入力のしかた

各ボタンを押したときに入力される文字は、「■文字入力一覧表」（⇒次ページ）を参照してください。

"スズキB" と入力する場合

1. ③ を3回押します。

=ｽ

2. ＃ を1回押します。

=ｽ

3. ③ を3回押します。

=ｽｽ

4. ＊ を1回押します。

=ｽｽﾞ

5. ② を2回押します。

=ｽｽﾞｷ

6. ＃ を1回押します。

=ｽｽﾞｷ

7. フック ボタンを押します。

-ｽｽﾞｷ

8. ② を2回押します。

-ｽｽﾞｷB

入力を間違えたときは
会 議 ボタンを押すと、一文字ずつ消去されます。
修正したい文字まで戻って、入力し直してください。

■確認のしかた

1. Help ◯ を押します。

ﾁｪｯｸ

2. 再/短 ボタンを押します。

ﾁｪｯｸ ﾀﾝｼｭｸ

3. 短縮番号を押します。

ﾁｪｯｸ　ﾎﾝｼｬ ﾀﾝｼｭｸ 1000123456789

4. Exit ◯ を押します。

続けて短縮番号を確認する時は、***3.*** の操作の後、***2.*** に戻って操作を行なってください。

■文字入力一覧表

かな入力モードと英数字入力モードを切り替えるときは、フックボタンを押します。

かな入力モード時

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11					
① ア	ア	イ	ウ	エ	オ	ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ	「ア」に戻る					
② カ	カ	キ	ク	ケ	コ	「カ」に戻る										
③ サ	サ	シ	ス	セ	ソ	「サ」に戻る										
④ タ	タ	チ	ツ	テ	ト	ッ	「タ」に戻る									
⑤ ナ	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	「ナ」に戻る										
⑥ ハ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	「ハ」に戻る										
⑦ マ	マ	ミ	ム	メ	モ	「マ」に戻る										
⑧ ヤ	ヤ	ユ	ヨ	ャ	ュ	ョ	「ヤ」に戻る									
⑨ ラ	ラ	リ	ル	レ	ロ	「ラ」に戻る										
⓪ ワ	ワ	ヲ	ン	「ワ」に戻る												
⊛	゛	゜	ー	。	「	」	、	・	「゛」に戻る							
＃	確定	空白（スペース）														

英数字入力モード時

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
① ア	1	@	[	¥	]	^	_	`	{	¦	}	→	←	「1」に戻る		
② カ	A	B	C	a	b	c	2	「A」に戻る								
③ サ	D	E	F	d	e	f	3	「D」に戻る								
④ タ	G	H	I	g	h	i	4	「G」に戻る								
⑤ ナ	J	K	L	j	k	l	5	「J」に戻る								
⑥ ハ	M	N	O	m	b	o	6	「M」に戻る								
⑦ マ	P	Q	R	S	p	q	r	s	7	「P」に戻る						
⑧ ヤ	T	U	V	t	u	v	8	「T」に戻る								
⑨ ラ	W	X	Y	Z	w	x	y	z	9	「W」に戻る						
⓪ ワ	0	!	"	#	$	%	&	'	(	)	「0」に戻る					
⊛	*	+	,	-	.	/	:	;	<	=	>	?	「*」に戻る			
＃	確定	空白（スペース）														

短縮番号を使ってかける

1. 受話器を取ります。
・"ツー、ツー"と、内線発信音が聞こえます。

2. 再/短 ボタンを押します。

3. 短縮番号をダイヤルします。
・ダイヤル送出音が聞こえます。
・続いて呼出音が聞こえます。
➡相手が出たら通話ができます。

ファンクションボタンにワンタッチダイヤルを登録する

相手先の電話番号など、各ファンクションボタンにダイヤルを登録しておくとワンタッチで発信することができます。

- 1台の多機能電話機には8個のファンクションボタンがあり、宛先を8個まで登録することができます。
- 同じファンクションボタンにあらたに番号登録することにより、以前に登録した相手先電話番号は新しい番号に置き換わります。
- ワンタッチダイヤルに登録できるのは、0 〜9 、＊、#、ポーズが登録可能です。（ポーズは転送ボタンを押します。）

■電話番号の登録のしかた

1. スピーカ ボタンを押します。

2. ワンタッチダイヤル登録特番（初期値；917）をダイヤルします。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
```

3. （ファンクションボタン）を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ          ｷｰ 01
```

4. ⓪ ① を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ          ｷｰ 01
           DSS/ﾜﾝﾀｯﾁ ｷｰ
```

ピーと音がしたときは、スピーカ ボタンを押し、ワンタッチダイヤルの登録の解除を行なってから、もう一度やりなおしてください。

5. ⓪ を押します。
0は外線発信番号です。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ          ｷｰ 01
                       0
```

6. 電話番号を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ          ｷｰ 01
              0031234567
```

7. 保 留 ボタンを押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ          ｷｰ 01
 DSS/ﾜﾝﾀｯﾁ ｷｰ 0031234567
```

8. スピーカ ボタンを押します。

■内線番号の登録のしかた

1. スピーカ ボタンを押します。

2. ワンタッチダイヤル登録特番(初期値;917)をダイヤルします。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
```

3. (ファンクションボタン)を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 01
```

4. ⓪ ① を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 01
              DSS/ﾜﾝﾀｯﾁ ｷｰ
```

ピーと音がしたときは、スピーカ ボタンを押し、ワンタッチダイヤルの登録の解除を行なってから、もう一度やりなおしてください。

5. 内線番号を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 01
                       201
```

6. 保 留 ボタンを押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 01
          DSS/ﾜﾝﾀｯﾁ ｷｰ 201
```

7. スピーカ ボタンを押します。

内線番号を登録すると
ファンクションボタンに登録されている内線電話機の状態が、ボタンのランプでわかります。

- 通話中 :赤点灯
- 未使用状態 :消灯
- 着信拒否中
(内線着信拒否、外線と内線の着信拒否):赤点滅

■登録内容の確認のしかた

1. Help ◯ を押します。

```
ﾁｪｯｸ
```

2. (ファンクションボタン)を押します。
押したファンクションボタンの登録内容が表示されます。

```
ﾁｪｯｸ                LINEｷｰ 01
                 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾂｳﾜ
```

3. 元の表示に戻るときは Exit ◯ を押します。

続けて他の登録内容を確認するときは、**2.** の操作後、他のファンクションボタンを押してください。

■ワンタッチダイヤルの解除のしかた

1. スピーカ ボタンを押します。

2. ⑨ ③ ⑧ を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
```

3. 登録を解除したい （ファンクションボタン）を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 06
          ｷｮｸｾﾝ ﾎﾟｰﾄ 006
```

4. ⓪ ⓪ ⓪ を押します。

```
ｷｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ            ｷｰ 06
              NOT DEFINE
```

5. スピーカ ボタンを押します。

ワンタッチダイヤル機能を使ってかける

ファンクションボタンを使ったかけかたは、外線にかけるときも内線にかけるときも同じ方法です。

1. （ファンクションボタン）を押します。

2. 受話器を上げます。

3. 相手が出たら、通話します。

リダイヤル（再発信）でかける

再送操作を行うと、最後にかけた電話番号を自動的に再ダイヤルします。

内線ではご利用できません

■かけ直す

電話をかけた相手にもう1 度かけたいとき、簡単に電話をかけ直すことができます。
かけた電話番号の履歴を、最大10件まで記憶できます。
１０件を超えた場合は、古い番号から順に上書きされます。また、記憶できる電話番号は、最大24桁までです。

直前にかけた相手にかけ直す

1. 再/短 ボタンを押します。

2. 受話器を上げます。

LINE 001
ｻｲﾀﾞｲﾔﾙ 01234567
ﾘﾋﾟｰﾄ ｶｲｷﾞ

3. 相手が出たら、通話します。

発信履歴から探してかけ直す

記憶されている10件の発信履歴から探してかけ直します。

1. 再/短 ボタンを押します。
最後にかけた相手の電話番号が表示されます。

ｻｲﾀﾞｲﾔﾙ[#] / ﾀﾝｼｭｸ
123
↑ ↓ ﾄｳﾛｸ ｻｸｼﾞｮ

2. 再/短 ボタンを押すと、発信履歴に記憶されている番号が切り換わります。
再/短 ボタンを押すごとに、発信履歴に記憶されている新しい番号から順に表示されます。
ここで操作を終了するときは Exit ◯ を押してください。

3. かけ直したい電話番号が表示されたら受話器を上げます。

4. 相手が出たら通話します。

■発信履歴を消去する

1件だけ消去する

記憶されている発信履歴の番号を1件だけ消去します。

1. 再/短 ボタンを押します。

ｻｲﾀﾞｲﾔﾙ[#] / ﾀﾝｼｭｸ
123
↑ ↓ ﾄｳﾛｸ ｻｸｼﾞｮ

2. “サクジョ”のソフトボタンを押します。

3. 約5秒後に通常の表示に戻ります。

全て消去する

記憶されている発信履歴の番号を全て消去します。

1. スピーカ ボタンを押します。

2. リダイヤル全件消去特番（初期値；817）をダイヤルします。

3. スピーカ ボタンを押します。

ｻｲﾀﾞｲﾔﾙ ｼｮｳｷｮ

通話中に保留や他の電話機に転送する

■外線と通話中のとき

外線と通話中、その通話を一時保留し、他の内線に転送することができます。

メモ

- 相手が話中または相手がでない時、緑点滅している （ファンクションボタン）または、緑点滅している 発信 ボタンを押すと保留した相手との通話に戻ります。
- 相手が都合により電話をきった時、緑点滅している （ファンクションボタン）または、緑点滅している 発信 ボタンを押すと保留した相手との通話に戻ります。

1. 外線通話中

2. 保留 ボタンを押します。

ホリュウ

3. 取り次ぎたい相手の内線番号を押します。

ﾖﾋﾞﾀﾞｼ　205

4. 内線通話で電話を取り次ぐことを伝えます。

ﾂｳﾜ　205

5. 転送 ボタンを押します。

6. 受話器を戻します。

■内線と通話中のとき

内線と通話中、その通話を一時保留し、他の内線に転送することができます。

- 相手が話中または相手がでない時、緑点滅している 会議 ボタンを押すと保留した相手との通話に戻ります。
- 相手が都合により電話をきった時、緑点滅している 会議 ボタンを押すと保留した相手との通話に戻ります。

1. 内線通話中

2. 保留 ボタンを押します。

ホリュウ

3. 取り次ぎたい相手の内線番号を押します。

ﾖﾋﾞﾀﾞｼ　205

4. 内線通話で電話を取り次ぐことを伝えます。

ﾂｳﾜ　205

5. 転送 ボタンを押します。

6. 受話器を戻します。

外線からのグループ通話の使いかた

外線からグループ通話するには、**電話回線接続ボード**（オプション）が主装置（**WD-M200**）に組み込まれている必要があります。組み込みと設定はお買いあげ販売店または、設置業者にご相談ください。

外線からグループ通話するには、ＤＩＤとＤＩＳＡの二つの方法があります。また、それぞれの方法には、自動接続モードと特番入力モードの二つがあります。

●DID（ダイレクト　イン　ダイヤリング）でグループ通話を行う場合

パスワードなしでグループ通話に接続されます。

・ 自動接続モード　：外線から電話をかけるだけで、自動的にインカムグループに接続されます。
・ 特番入力モード　：外線から電話をかけて一度つながった後に特番を入力することで、インカムグループに接続されます。

●DISA（ダイレクト　イン　サービスアクセス）でグループ通話を行う場合

パスワードを入力してグループ通話に接続されます。

・ 自動接続モード　：外線から電話をかけて一度つながった後に、パスワードを入力することで、インカムグループに接続されます。
・ 特番入力モード　：外線から電話をかけて一度つながった後に、パスワードと特番を入力することでインカムグループに接続されます。

DID(ダイレクト　イン　ダイヤリング)通話モード

■自動接続モード

1. 外部の電話機（加入者電話、公衆電話、携帯電話等）からインカムの外線に電話をかけます。

自動的にインカムに参加します。

2. 通話になります。

システム設定により次のようになります。

① グループ番号1～8のどれかに接続されるように設定されている場合

・設定されたインカムグループ全員とグループ通話をします。
・通話内容は他のインカムグループには聞こえません。

② 一斉連絡するように設定されている場合

・受話器で話します。内容は全員に聞こえています。（一斉連絡）
・個別通話や放送をしている人には聞こえません。
・ここで相手が応答することにより、個別通話に移ることもできます。（個別通話モード）

3. 外部の電話機の受話器を戻すと、グループ通話を終わります。

電話回線や交換機の状態によっては、つながっていたインカムグループの全員に話中音（「ツーツーツー」という音）が数回聞こえる場合があります。

■特番入力モード

1. 外部の電話機（加入者電話、公衆電話、携帯電話等）からインカムの外線に電話をかけます。

2. 数回呼び出し音が聞こえた後「ピロピロ…」という音が聞こえますので、グループ通話アクセス特番（初期値:８ ５ ８ ）+グループ番号（1～8、0で一斉連絡になります）をダイヤルします。

3. 通話になります。

① 手順**3.**でグループ番号1～8をダイヤルした場合

・指定したインカムグループ全員とグループ通話をします。
・通話内容は他のインカムグループには聞こえません。

② 手順**3.**でグループ番号0をダイヤルした場合

・受話器で話します。内容は全員に聞こえています。（一斉連絡）
・個別通話や放送をしている人には聞こえません。
・ここで相手が応答することにより、個別通話に移ることもできます。（個別通話モード）

4. 外部の電話機の受話器を戻すとグループ通話を終わります。

電話回線や交換機の状態によっては、つながっていたインカムグループの全員に話中音（「ツーツーツー」という音）が数回聞こえます。

ご注意

●自動接続モードか、特番モードかは、システム設定により決まります。
お買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

●通話終了時、外部の電話機の受話器を戻すと、受話器と電話機が当たる音が子機のイヤホンから発生し、耳を傷める場合があります。通話終了時は必ず次の方法で行なってください。
①外部の電話機のフックスイッチを指で押してから、受話器を戻す。
②外部の電話機の受話器を静かに戻す

●電話回線や交換機の状態によっては、外部の電話機の受話器を戻してもグループ通話が終了しない場合があり、この時は交換機から警告音が子機のイヤホンから発生し、耳を傷める場合があります。お買いあげ販売店または、設置業者にご相談ください。

DISA（ダイレクト　イン　サービスアクセス）通話モード

パスワードが必要なので関係者以外はインカムグループと通話や一斉連絡できません。

■自動接続モード

1. 外部の電話機（加入者電話、公衆電話、携帯電話等）からインカムの外線に電話をかけます。

2. 数回呼び出し音が聞こえた後「ピロピロ…」という音が聞こえますのでパスワード（6桁）をダイヤルします。

自動的にインカムグループとつながります。

3. 通話になります。

システム設定により次のようになります。

① グループ番号1～8のどれかに接続されるように設定されている場合

・設定されたインカムグループ全員とグループ通話をします。
・通話内容は他のインカムグループには聞こえません。

② 一斉連絡するように設定されている場合

・受話器で話します。内容は全員に聞こえています。（一斉連絡）
・個別通話や放送をしている人には聞こえません。
・ここで相手が応答することにより、個別通話に移ることもできます。（個別通話モード）

4. 外部の電話機の受話器を戻すと、グループ通話を終わります。

電話回線や交換機の状態によっては、つながっていたインカムグループの全員に話中音（「ツーツーツー」という音）が数回聞こえる場合があります。

■特番入力モード

1. 外部の電話機（加入者電話、公衆電話、携帯電話等）からインカムの外線に電話をかけます。

2. 数回呼び出し音が聞こえた後「ピロピロ…」という音が聞こえますのでパスワード（６桁）をダイヤルします。

3. 再度、「ピロピロ…」という音が聞こえたら、グループ通話アクセス特番（初期値：858）＋グループ番号（1〜8、0で一斉連絡になります）をダイヤルします。

4. 通話になります。

① 手順***3.***でグループ番号1〜8をダイヤルした場合

・指定したインカムグループ全員とグループ通話をします。
・通話内容は他のインカムグループには聞こえません。

② 手順***3.***でグループ番号0をダイヤルした場合

・受話器で話します。内容は全員に聞こえています。（一斉連絡）
・個別通話や放送をしている人には聞こえません。
・ここで相手が応答することにより、個別通話に移ることもできます。（個別通話モード）

5. 外部の電話機の受話器を戻すと、グループ通話を終わります。

電話回線や交換機の状態によっては、つながっていたインカムグループの全員に話中音（「ツーツーツー」という音）が数回聞こえる場合があります。

ご注意

●パスワード、自動接続モードのときの接続先はシステム設定により決まります。
お買い上げ販売店または、設置業者にお問い合わせください。

●通話終了時、外部の電話機の受話器を戻すと、受話器と電話機が当たる音が子機のイヤホンから発生し、耳を傷める場合があります。通話終了時は必ず次の方法でおこなってください。

①外部の電話機のフックスイッチを指で押してから、受話器を戻す。
②外部の電話機の受話器を静かに戻す。

●電話回線や交換機の状態によっては受話器を戻してもグループ通話が終了しない場合があり、この時は交換機から警告音が子機のイヤホンから発生し、耳を傷める場合があります。お買いあげ販売店または、設置業者にご相談ください。

その他

故障と思う前に

「おや？」「故障かな？」と思ったら、修理を依頼する前にちょっとお確かめください。

症　　状	原　　因	処　　置
子機の電源を入れたときに、動作ランプが赤から緑に切り換わらない。同時にイヤホンからプーッ音が聞こえる。	同一場所に設置された親機1台につき3台の子機しか通話できません。(電波の規格による)それを越えた子機は、動作ランプが赤になります。 すでに通話している子機がこの親機から圏外に移動すると、自動的につながるようになります。	親機を増設するか、他の親機の近くに移動してください。
一斉連絡や放送ボタンを押しても「ピピ」という音がして一斉連絡や放送ができない。	一斉連絡や同じ出力先への放送は同時に1人しか使用できません。 また、多機能電話機でグループ通話モニターを行なっていると、子機からの一斉連絡や放送ができなくなります。	一斉連絡や放送を行なっている人が終了するまで待ってからやり直してください。
使用中に ・ 通話が途切れる。 ・ ノイズが聞こえる。	電波の状態によって通話接続相手の親機からの電波が届かなくなり、接続し直す別の親機を探しているからです。約2～3秒かかります。(ハンドオーバー) また、親機が見つからなかった場合や、見つかってもその親機にすでに3台の子機が接続されている場合、いつまでも接続できる親機を探し続け、その間通信ができなくなります。(動作ランプが赤く点灯します)	親機の近くでありながら通信できなくなることが多い場合にはビクターサービス窓口にご相談ください。また、初期設定でビジー音を小さくすることもできます。ビクターサービス窓口にご相談ください。
子機のイヤホンから「ブツ」というノイズが発生することがある。	本システムは1.9GHz帯のデジタル無線通信を使用しています。近くにノイズを発生する機器がある場合、そのノイズによって通信が正確にできなくなり、デジタル信号を音声信号に変換するとき、ノイズに変換される場合があります。	ノイズ源となるコンピューターやモーター、放電式空気清浄機等から離れて使用するか、親機の設置位置をこれらの機器から離れた場所に移動させてください。 親機に近づきすぎる(2ｍ以下)とノイズが出る場合があります。親機の設置位置を移動させるか離れて使用してください。
通話が時々途切れる。	通信のデータが正しく受信できなくなった場合(外来ノイズや電波が弱くなったときなど)音声のノイズが大きくなるまえにイヤホンの音声を遮断しています。	ノイズ源(上記参照)から遠ざかるか親機の近くに移動してください。
いったん圏外(電波の届かない場所)に移動したあと、親機に相当近づかなければ再接続しない。	頻繁に親機との接続を変更(ハンドオーバー)しないよう、また電波の弱い遠くの親機との接続が起こらないように、電波が強くなければ接続しないようにしています。	圏外になるときと接続するときの電波の強さを設定することができます。あまりにも気になるようでしたらお買い上げ販売店または、設置業者にご相談ください。
音量ボタンを押していないのに、動作ランプが赤点灯(電池残量少の場合は赤点滅)、音量表示ランプ1が赤点灯になる。	同一場所に設置された親機1台につき3台の子機しか通話できません。(電波の規格による)それを越えた子機は、このようなランプ表示になります。 すでに通話している子機がこの親機から圏外に移動すると、自動的につながるようになります。(音量表示ランプ1が消灯します)	親機を増設するか、他の親機の近くに移動してください。
動作ランプが緑点滅(電池残量少の場合は赤点滅)、音量表示ランプ2が赤点灯になり、イヤホンから「ピピピピ‥」と音がする。	この子機は、システムへのグループ通話登録がされていません。	この子機は、システムへのグループ通話登録をする必要がありますので、お買い上げ販売店または、設置業者にご相談ください。

保証とアフターサービスについて

● 保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付してあります。保証書はお買い上げ販売店でお渡しいたしますので、所定事項記入および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

● 保証期間について

保証期間はお買い上げ日より１年間です。保証書記載の内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有料にて修理いたします。

● アフターサービスについてのお問い合わせ先

その他アフターサービスについてご不明の点は､お買い上げ販売店または最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。

● 修理を依頼されるときは

調子が悪いときは、この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。簡単な調整で直ることがあります。それでも具合が悪いときは、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

- 機種名:**WD-2000**シリーズ
- 故障の状態をできるだけ詳しく
- ご購入年月日
- ご住所､ご氏名､電話番号

● 消耗品について

この取扱説明書の中で、消耗品と記載されているものは、保証期間内でも有償とさせていただきます。お買い求めの際は、お買い上げ販売店、または最寄りのビクターサービス窓口にお問い合わせください。

● 商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適正に処理してください。

主な仕様 （本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。）

■WD-M200　主装置

交換方式	通話路方式　PCM時分割方式 制御方式　蓄積プログラミング制御方式
スロット数	WD-MU20用スロット：1、その他のボード用スロット：8
収容可能ボード	WD－MU20、WD－MU22、WD－MU23、WD－MU24、電話回線接続ボード（オプション）
電源	AC100 V　50 Hz/60 Hz
消費電力	720 W（オプション最大装着時）
動作温度範囲	0 ℃～40 ℃
外形寸法	418 mm（幅）×397 mm（高）×265 mm（奥行）
仕上げ	メタリックグレー
質量	14.5 kg
付属品、添付物	WD-NB20接続用ケーブル .... 1 安全上のご注意 .... 1 販売店様および設置業者様へ .... 1 シート（A4）「月に1度は清掃を！」.......... 1 電源コードラベル .... 1 取扱説明書（本書） .... 1 システム設定データシート .... 1 保証書 .... 1 ビクターサービス窓口案内 .... 1 壁掛けブラケット 1

■WD-MT20　多機能電話機

LCDキー	24文字×3行 8個のファンクションボタン
ハンドセット音量切換	13段階
スピーカ音量切換	14段階
着信音量切換	13段階
動作温度範囲	0 ℃～40 ℃
外形寸法	175 mm（幅）×96 mm（高さ）×226 mm（奥行）
仕上げ	ホワイト
質量	0.85 kg
付属品、添付物	モジュラーケーブル（約2 m） .... 1 保証書 .... 1 電話機ボタン名ラベル 1

■WD-T150　セルステーション

送受信周波数　1.9 GHz帯
送信出力　10 mW(平均)
変調精度　12.5 %以下
受信感度　16 dBμV以下
消費電力　4.3 W(WD-M200より、供給)
動作温度範囲　0 ℃～+40 ℃
外形寸法　160 mm(幅)×43,3 mm(高さ)×154 mm(奥行)
仕上げ　ライトグレー
質量　0.32 kg
付属品、添付物　木ねじ 2
ねじ 2
保証書 1

■WD-AF20　放送入出力ユニット

入力出力端子　ピンジャック ×2(設定により、入力／出力切り換え可)
入力:−8.9 dBm(最大)／600Ω
出力:+8.5 dBm(最大)／600Ω
動作温度範囲　0 ℃～40 ℃
外形寸法　175 mm(幅)×40 mm(高さ)×115 mm(奥行)
仕上げ　黒
(マンセル5.3G 2.4/0.3)
質量　0.3 kg
付属品、添付物　モジュラーケーブル(約2 m) 1
保証書 1

■WD-TR200　ポータブルトランシーバー

送受信周波数	1.9 GHz帯
送信出力	10 mW(平均)
変調精度	12.5%以下
受信感度	16 dBμV以下
電源	DC3.6 V(充電式リチウムイオン電池使用)
充電時間	最長約4時間(フル充電)
使用時間	約10時間(フル充電時)
動作温度範囲	0 ℃〜+40 ℃
外形寸法	53 mm(幅)×122 mm(長さ)×21.5 mm(厚み)
質量	120 g
仕上げ	ABS樹脂、ダークブルー
付属品、添付物	保証書 .... 1 ビクターサービス窓口案内 .... 1 電池の取扱いについてのご注意 .... 1 取扱説明書 .... 1 バッテリー .... 1 ラベル 1

■WD-C11　チャージャー

電源	AC 100 V　50 Hz／60 Hz
消費電力	22 VA
出力	DC4.2 V　400 mA(3回路)
充電時間	約4時間
外形寸法	260 mm(幅)×107 mm(高さ)×120 mm(奥行)
質量	1.1 kg
適合機種	WD-TR200、WD-TR100、WT-TR80、WT-TR60、および専用バッテリー
使用温湿度	5 ℃〜+35 ℃　85%以下
付属品、添付物	保証書 .... 1 ビクターサービス窓口案内 .... 1 安全上のご注意 .... 1 取扱説明書 1

WD-2000シリーズ　デジタルワイヤレスインターカムシステム

お客様ご相談センター

フリーダイヤル
0120－2828－17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電話 (045)450-8950 ［代表］
FAX (045)450-2275
〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
〒192-8620　東京都八王子市石川町2969-2　電話(042)660-7203

LST0244-001C